

今を尽くす、明日を信じる

Builder：井坪工務店 Place：中川村 Family：夫婦

奥様のふるさと南信州へ移住することを決め、2025年の夏、夫妻は愛知県から越してきました。これを機に畑づくりを始めたものの、特にご主人にとっては初めての田舎暮らし、心配ごとはあれこれあります。それでも、「どうにかなるかな」と微笑むその表情には、やれることを今日もやりきった充実感が、浮かんでいました。



A

B

C

A_どんなに忙しくても、毎朝欠かさず神棚にお供えする水を取り換え、神様へ頭を下げる。この家をつくってから、奥様の習慣になった。 B_住まいはシンプルな外観の平屋。外壁や屋根はともに落ち着いた色で、緑豊かな土地との相性もいい。 C_リビングの目の前に畑をつくっている。今年の作業はまず草刈りと土づくり。来年から自分たちが食べたい野菜を育てていく。



両親が親しむ「農ある暮らし」を
そのそばでしかうて

伊那谷では、諏訪湖から南へ流れ下る天竜川を挟んで東側を竜東、西側を竜西といい、竜東からは中央アルプスが、竜西からは南アルプスが正面に望めます。どちらからの眺めが好みかによって、移住先を選ぶ人も多いようですが、中川村においては、竜東の見晴らしの良い高台が人気を集めているそう。K夫妻も中央アルプスの景観と周囲ののどかな雰囲気が気に入ってこの土地に決めました。

愛知県から中川村へ二人が移住したのは、実は差し迫った理由がありました。この家から車で10分ほどの村で生まれ育った、奥様のお母さんが体調を崩され、ご両親の世話や手助けをするために一刻も早くふるさとへ戻りたかったのです。

移住地の条件は、何より奥様の実家に近いこと。そして、家の前に畑がもてること。奥様のご両親がずっと親しんできた「農ある暮らし」に、自分たちも関わってみたいからです。もとは梨畑だった土地を買い求

め、その場所に、夫妻は家よりも広い畑を確保しました。

家づくりを託した井坪工務店の良さを初めて実感したのは、同社のハウジングセンターへ出かけたときでした。長野県が発祥というWB工法でつくられた空間は、真夏なのに「もわっと感」がなく、「さらっと」爽やかな空気で満ちていたのです。

そうした住宅性能の高さに加え、上質な素材と大工の手仕事へのこだわり、住むほどに愛着が深まる家をつくり続けてきたことへの地元の厚い信頼——。これら井坪工務店の家づくりに対する姿勢は、ものづくりにたずさわってきたご夫妻にとっても、十分納得のいくものでした。



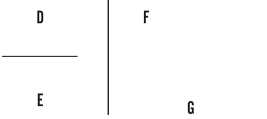


D_このLDKが家の中心。右手が玄関ホールへ出る引き戸。左手は寝室やトイレ、お風呂など、プライベートなスペースへとつながる。

E_キッチンは無垢の木を使ったウッドワンのもの。素材も色合いもこの家にしっかりと馴染んでいる。

F_照明などのインテリアは、ご主人の趣味で選んだ。一方、奥様の関心は、気密性や通気断熱などの機能面が中心だったとか。そんな家づくりに関するあれこれを検討する際参考にしたのはYouTubeからの情報が多かったそう。

G_畑仕事を終えたら、この屋根付きの勝手口で土ばこりを払い、汚れた靴も脱ぐ。刈払機など道具のメンテナンスや収納にも便利。



動線とスロップシンクで

畑仕事の汚れを屋内へ持ち込まない

K邸は28坪ほどの平屋です。家の中でむやみに「動かない」ことをテーマにした動線はいたってシンプル。もし廊下と呼ぶとしたら、LDKと寝室、洗面室をつなぐ1坪に満たないスペースのみで、暮らしに必要な機能を合理的に振り分けたことが、移動のストレスを最小限にしています。

この家の動線で特筆すべきは、畑仕事を前提とした造りでしょう。ウッドデッキの左手に設けたテラスは、小型の農機具置きと勝手口を兼ねています。畑仕事の後、ここで土を払ってから中に入れば、すぐそこがランドリールーム。汚れた服は洗濯機へ入れる前に、まず、勝手口の脇に備えたスロップシンクでさっと水洗いできます。ランドリールームの先は脱衣室とお風呂。外で働いてかいた汗をすぐに洗い流せます。

まだ越してきたばかりで、野菜づくりを本格的に始めるのは来年から。でも、刈払

機を使った草刈りや小型耕運機での土づくりはもう始まっています。田舎暮らしが初めてのご主人の指導役は、娘夫婦が近くに越して「農ある暮らし」を始めることを喜んだお父さんでした。気にかけていたお母さんの容体も今は落ち着いたといいます。

「さつまいもにアスパラにトマト、タマネギ。まずは自分たちが食べたいものだけつくろうね」。そんな会話が食卓で弾みます。





「どうにかなるかな」と笑って
不安な心を包みこむ

仕事に関しては、奥様は越す前に勤めていた企業の系列会社が、新居から通える距離にあり、そこで職を得ました。一方、ご主人は次の勤め先が決まらないままでの移住となりました。しかも、慣れない土地で不安があるはずなのに、「どうにかなるかな」と優しく笑います。ご自身の心だけでなく、母親の体調のことで気をもんでいた奥様の不安を和らげるかのように。

土に親しみ、作物を慈しみ育てる人は、今日やるべきこと、自分が今できることに専念して丁寧な仕事を尽くします。今日をおろそかにしないのは、明日の実りを信じるからです。だから、毎朝神棚を拝する奥様の祈りも、きっと届いています。

伊那谷では、天竜川をさかのぼるように南の風がよく吹きます。小上がりの窓辺に座り、目の前に広がる山里の風景とその奥にそびえる中央アルプスを眺めるご主人の脇で、風鈴が心地よい音を立てました。

Tomorrow is another day. そう。明日は明日の風が吹くのです。

H | J
I | K | L

H_ダイニングテーブルの向かいに小上がりを設けた。天井にはロールスクリーンが仕込んである。ダイニングテーブルに並んで座り、プロジェクターで映画などを愉しむことも。 L_小上がりは食後のお昼寝にぴったり。小さな畳スペースにも和の意匠の天井をあしらひ、違和感なく魅せられるのは、井坪工務店ならではの技。 J_隠しすぎず、見せすぎないキッチンの、飾らない自然さがいい。冷蔵庫奥のカーテンの向こうはパントリーになっている。 K_寝室に備え付けたウォークイン・クローゼットから洗面所を見る。家の中での移動を最小限にとどめた動線が機能的。 L_ランドリールームには、奥様のこだわりでスロップシンクを付けた。細仕事に着ていた服は、ここで一度汚れを落としてから洗濯機に入れる。





M	Q	R
N		
O	P	S

M・N_家を建てるにあたり、神棚を置くことにした。納まりの良さは、さすが木を扱うことに長けた井坪工務店の仕事。 O・P_小上がりの窓辺に座布団を敷いて、外を眺めるのが何よりの喜びだと話すご主人。「能作」の真鍮風鈴は、その透明感のある音色と美しい余韻が気に入っている。 Q_玄関脇には夫婦共用の書斎がある。小さなスペースだが、設置場所に遊び心が感じられる。想像以上に落ち着けるのかもしれない。 R_寝室には横長のフィックス窓を高い位置に設けた。映像を観るのが好きな夫妻は、寝室でも壁の1面をスクリーンに利用して作品を鑑賞している。 S_家の南にあたる左手に、結構な大きさの畑が広がる。あたりは天竜川の谷の段丘上にあって見晴らしも素晴らしい。天気のいい日は中央アルプスが望める。



OWNER Kさん

POINT 1 信州に暮らしてよかったこと

両親の近くで暮らせたこと。家の目の前に畑をもって、これから野菜づくりを楽しめること。

POINT 2 家づくりでよかったこと

井坪工務店が採用しているWB工法。自然素材の機能も手伝って、家の中はいつも快適です。

POINT 3 先輩としてのアドバイス

県外から移住する場合、土地は不動産業者、家づくりは工務店のように別々に頼むという大変ですから、土地探しから工務店に任せられると安心です。

有限会社 井坪工務店
飯田市上郷黒田 693
0265-22-5262 (代)
<https://itsubo.co.jp>